

A black and white photograph of a table setting. In the center, there are several glasses: a tall flute glass, a shorter tumbler glass, and a coupe glass. To the right, there is a vase containing a bouquet of flowers, possibly hydrangeas. The background is dark and filled with many small, bright, out-of-focus lights, creating a bokeh effect. The overall mood is elegant and celebratory.

短歌な大忘年会 2021

*in the zine*

# うたげ

*Free  
paper*

# 本日は どちらから ご参加ですか？

参加者さまお住まい一覧



滋賀 3  
京都 3  
大阪 10  
兵庫 1  
奈良 2  
和歌山 2

新潟 2  
富山 1  
岐阜 1  
静岡 2  
愛知 3

北海道 3

岩手 1  
宮城 3  
山形 2

茨城 1  
群馬 1  
埼玉 3  
千葉 3  
東京 15  
神奈川 7

総勢 77名!

たくさんのご参加をありがとうございます!



## ★短歌な大忘年会とは★

短歌な大忘年会連絡係：龍翔

みなさま、ご機嫌いかがでしょうか。『短歌な大忘年会 2021 in the zine 一うたげー』によろこおいでくださいました。私は、この《短歌な大忘年会》の《連絡係（幹事、と呼ばれるのが苦手ですこのように名乗っております）》をしております。龍翔でございます。

さて、あれはまだ中崎町のサクラビルに《葉ね文庫》ができる前、《Books DANTALION》という zine 専門店があったころ—2011年に《短歌な大忘年会》は始まりました。初めは《1年に1回、忘年会という名目で、関西で短歌をつくるひとびとが集まって、おし

いものを食べたり飲んだりしながら、短歌について話したり話さなかったりしつつ、わちゃわちゃする会》というような、とても長たらしい、ゆるい名前だったと記憶しています。

今となっては信じられないことですが、そのころは、超結社の集まり、というか、結社やインターネットといった《場》を越えた集まりはまだまだ少なく、《関西》とは言いながらも、北海道から鹿児島まで、全国から参加者が集まっていたのです。

あれから10年、といまとても感慨深い気持ちであります。前置きが長くなりましたが、それでは今年も《短歌な大忘年会》を始めましょう！みなさま、飲み物のご準備はよろしいでしょうか？……乾杯！

青時  
 麻倉ゆえ  
 あばがど  
 天野うずめ  
 雨虎俊寛  
 あるこじ  
 五ツ木居家  
 稲葉光亮  
 岩瀬百  
 牛隆佑  
 宇祖田都子  
 泳二  
 江戸 雪  
 大坪命樹  
 音羽凜  
 小野小乃々  
 洵れ井戸  
 河岸景都  
 神乃  
 橘高なつめ  
 木野 葛紗  
 君村類  
 鯨木ふひ  
 小金森まさ  
 さとうはな  
 サラダビートル

grp  
 詩季  
 嫉妬林檎  
 柴田 瞳  
 嶋田さくろこ  
 西鏡  
 雀来豆  
 鈴木バルキ  
 せいや  
 sail  
 第二灯台守  
 たえなかず  
 高橋良  
 田中翠香  
 谷じゃこ  
 丹花ヨム  
 男女  
 千原こはぎ  
 月硝子  
 月城かいん  
 寺阪誠記  
 堂那灼風  
 中野功一  
 なべとびすこ  
 榑原もか  
 西淳子

西村曜  
 ネコノカナエ  
 のにし  
 袴田朱夏  
 丁香花 古  
 早月くら  
 福山桃歌  
 冬沢こたつ  
 古井久茂  
 古川柊  
 榊枯井戸  
 街田青々  
 深影コトハ  
 水沢穂波  
 みそのみそ  
 宮木水葉  
 深山睦美  
 虫武一俊  
 六浦筆の助  
 六厩めれう  
 八重森さくら。  
 ゆや ゆき  
 龍翔  
 和田晴美



ご参加  
 いただいた  
 皆さん🍷

(敬称略)

エッセイ

宇津つよし／西村曜／牛隆佑／泳二／江戸雪

## 短歌な大忘年会の歴史



第1回 (2011.12.22)  
 第2回 (2012.12.15)  
 第3回 (2013.12.21)  
 第4回 (2015.1.11)※新年会

参加者  
 22名  
 33名  
 46名  
 48名

第5回 (2015.12.27) 46名  
 第6回 (2016.12.17) 49名  
 第7回 (2017.12.9) 42名  
 第8回 (2018.12.16) 41名  
 第9回 (2019.12.22) 38名  
 第10回 (2020.12)※紙上 96名

## 祖父母は遠く

私たちは感染症の蔓延で帰省できない距離に生きている  
葬儀とは別れのかたちなのだろうけれど届かず日常のまま  
昨年は祖父が今年は祖母が逝き五月の空に光こぼれる  
お浄土で仲睦まじく私らの幸せ願っているのでしょうかね  
来年は一周忌かつ三回忌できるでしょうか要なんて  
祖母の名の花のイラスト添えられた喪中欠礼はがきが届く  
教わったことを忘れず暮らすべく感謝と共に手を合わせよう

あさくう  
麻倉 ゆ え

@AsakuraYue

どんな  
仮装？  
★

白衣のマッドサイエンティスト

## 月の列車

見上げれば注意現示が皓々とよき香をはなちながら満月  
空を飛ぶペンギン宿る銀色の乗車券だけあればどこへも  
最後尾デッキは舞台緞帳をなでてくくじらたちの歌声  
食堂車看板メニューオムライス〜月夜にポインセチアがひらく〜  
ほのあわい車内の灯りお互いはよく見えなくても世界は見える  
ぬばたまの夜もあなたを感じれば月の車掌の声うつくしい  
終点の夢へいざなう月のゆりかごにまかせておやすみなさい

あおとき  
青時

@madobenoumibe

どんな  
仮装？  
★

冬なのでぼっぼやの高倉健さん

# チャンピオンズミーティング、お疲れ様でした！

入着ができればいいよと送り出す私のチームのウマ娘へと  
パドックで元気な笑顔を見せているスペシャルウィークは一番人気  
芝なのに先頭を駆け逃げていく対戦相手のスマートファルコン  
スタートで出遅れたから中盤でチーム全員掛かってしまう  
終盤に向けて一気に加速するゴールドシップここから差せるか  
直線が思ったよりも伸びなくて一バ身差の二着であった  
僕でないトレーナーなら気持ちよくレースを勝たせてあげられたかな

あめの  
天野うずめ  
@uzume\_no\_hijiri



どこに売っているかわからない  
お菓子を配る歌会参加者

# もし僕が 星になっても

本当に、本当についてタレントが言ってるのはじめて嘘に気付いた  
駅前のパン屋が駅ナカのパン屋になってそれでも僕はそのまま  
玉ねぎに泣かされているふりをしてピクミンたちに思いを馳せる  
つぶあんはなんかずるいや光ってて小さな宇宙を見てるみたいだ  
しずやかに人の思いをたくわえて郵便ポストの唇光る  
傘という字のなかに住む人々の代わりに雨に打たれてあげる  
もし僕が星になっても肩ぐるまされた子どもが見つけてくれる

あぼがど  
@abggg\_d



にんじん

## 獲物

訊かれれば答えるけれど自分から言わないこれは卑怯でしょうか  
警察に誰も被害を届けられないだから捜査も進まなかった  
犯人を知ってる人が一人いてそれを誰にも教えぬ理由  
居酒屋に生け簀があった泳いでる魚は別に守られてない  
はじめから無かったことにされていて誰も悲しまないで済んでいる  
フェアじゃない 犯人だって誰からも悼まれないでなくなるべきだ  
年はまた越されるだろう人の数だけある秘密が秘密のまままで

あるこじ  
@arukoji\_tb



サイゼリアの間違い探しであと  
一つが見つからない人

## もうすぐ星空

一度きりの今日という日が暮れてゆく降りしきるほど星が見れたら  
手をつなぎ駅へと向かうそれだけでやさしく見える人混みの街  
切りがたい電話のようにすこしだけ帰りはいつも遠回りする  
吹き抜ける風が冬へと変わったとつないだ手ごとコートポケット  
夜の色ゆっくり満ちて曲がり角 覚えていたことが増えてく  
白い息でまた明日って言い合えば楡の向こうにもうすぐ星空  
見つめあうことよりなにか見つめてるきみの背中を見つめていたい

あめふうしとしひろ  
雨虎俊寛  
@amefurashi3107



赤いなまはげ

## 並行世界未滿

月一で虹が降っては雨架かる 田舎あるある抱いて上京  
将棋部の全国祝う幕の横『ごめんねタダシもう別れたい』  
母にもらったものなんです、もうちよつと高くなりませんか腎臓  
飲まなきややつてらんねつすストロングラムチャウダー一気飲みして  
不幸にもドライブ中に死んじやえば遺影はツーシヨになるはずだよね？  
切り花を運べるように進化したビニール袋はきりんのしそん  
比ゆのゆがひらがなのままあるように完璧よりもやさしくいきる

いなばこうすけ  
稲葉光亮  
@ko\_suke\_inaba



ぬ！

## おじや

鍋をした 父母祖父おこぼれをもらった犬までほくほくの頬  
ペランダで缶ビールを取る 寒風にあてられ電気鍋もBメロ  
冷やご飯、冷凍ネギに卵5個、こだわりのある父の演説  
(ほんとうはおじやが嫌い) 言えぬまま年一回の関係になった  
祖父いわく肉があつたら当たりらしい だから自分の肉をくれるの  
ゆるやかに解散になる 昭和シテイポップのフェードアウトみたい  
うっすらと積もりはじめた水分子 めぐりめぐつて会う約束ね

いつききよか  
五ツ木居家  
@yunusuketanaka



長ネギ

## 短歌な大忘年会と私

宇津つよし

@uzujoshi

僕が、なぜ短歌な大忘年会に毎年参加しているかというところ、「みんなキラキラしてるなあ、うらやましいなあ、みんなに負けないように頑張ろう」と、自分自身の活動のパワーをいただけるからです。

短歌をはじめて約20年になります。特に組織に属さず、投稿を中心に活動しておりますが、時々、自分が何をやっているかわからなくなり、歩みがスローになってしまうことが結構あるんです。結社とか、何等かのサークルに所属すれば、仲間もいていいじゃないかと思うのですが、ただでさえ会社で10年以上昇級できない、主任のままの不器用な私なので(笑)、会社と入ったグループの2つで上手く立ち回る自信がない……。自分のなかで、両立できるバランスを考えた場合、いまのスタンスに落ち着いています。そんな僕にとって、「短歌な大忘年会」は活動の道標となる刺激を与えてくれる、重要な集まりです。

忘年会ではだいたい毎年、会場に行く前に葉ね文庫さんに立ち寄ってアイドリング。会場に向かったら、牛さんと、短歌の情報を交換したり、じゃこさんには「よっ！係長！」、「いや主任だわ！」というエール交換(?)をしたり、こはぎさんの凜とした佇まいを

拝見させていただきながら、くるる君を励ましつつ喫煙スペースに出て、寒空のなか一呼吸おいて、ましろ君の仕事を話さふむむむとうかがったあと、泳二さんとななさんと、う〇この話をして、きゅー！さくらこさん！今年もお会いしましたねえ！つてお互いに激しく手を振りながらテンション爆アゲ、龍さまに抱きつき今年もありがとう！つてハゲをする流れです。みんな変わらな、ありのまま、すげーすげーと思いつつ、俺も負けていらんねえ！と酔っぱらって家に帰ります。

ここ数年、僕が「宇津つよし」で居続けることができています。本当に、「短歌な大忘年会」の存在がデカすぎます。そこに参加されているメンバーが素敵すぎて、あの人みたいになりたい、あの人はこう活動しているから、こんなことやってみよう、前向きに試行錯誤していたから今があります。

コロナの影響で、昨年、今年と皆さんに直接お会いができないのが残念なのですが、直接お会いすると、頭のおかしいヤツになってしまいますので(笑)、こうやってZineで正直な気持ちを書かせていただきましたこと、ホンマに感謝しております。

今後とも、どうぞよろしくお願いします。

追伸：泳二さん、う〇この歌会ライブいつやる？ずつとオフアワー待ってるんだけど……

どんな  
仮装？ライオネル・リッチーの  
コスプレ

## 昨日のこと

ファミレスにファミリーで行くパラレルを夢想したことなど一度もない  
杜仲茶の香りのする水 ガストにあるものでもっとも好きなものなら  
ゆき降りて年の暮れぬるいつかこのガストもスターバックスになる  
店長と顔なじみになる スーパーで見かけて頭を下げるくらいひと月に一度は泣いている人に出会おうのがガスト大阪のガスト  
この店の一番人気が超盛りのフライドポテトいいのかガスト  
今日も人々はガストにあつまり昨日のことを話すなどする

うしりゅうすけ  
牛隆佑  
@ushiryu31



美食倶楽部 椀方。

## Another round.

合法的魔力の宿る液体が全て解決してくれる夢  
老犬の目を持つ人が呷るとき微かに濁る透明な酒  
逆襲がしたい私に炙られて烏賊はこんなに丸まっている  
幾千の船を沈めし怪物の末裔にマヨ七味が似合う  
居酒屋のトイレへの角曲がる人みんな一瞬正気に見える  
知らぬ間に小さくなった氷ごと飲み干す酒のような冷水  
夜の窓とうてい素面じゃ無さそうなこつちを見てる知らん奴の目

いわせりも  
岩瀬百  
@momo\_iwase



いかりや長介

## 二次会に行こう

どうしよう酔っぱらうには歌が足りなくて そうだ、二次会に行こう  
二次会に行こうジャンカラ本店のフロア丸ごと貸切りにして  
プレゼント交換で君がゲットしたあれを見せてよ二次会に行こう  
二次会に行こう西町公園のジャングルジムにウーバー呼ぼう  
詩とLyricリリックが韻びんで手を繋ぎそんなことより二次会に行こう  
二次会に行こう二人で抜け出して袋小路の小さなバーに  
行く人はハイ！元気に手をあげて ハッシュユタグは #うたげ二次会

えいじ  
泳二

@Ejshimada



なかやまきんに君

## 光陰矢の如し

時間とは針三本で測られて針千本を飲まされる嘘  
時間とは移動していく点Pをこの世に留めるためのアンカー  
時間とは円周率を利用して永遠という欲を産む詐欺  
時間とは影あるものが軋ませる必要悪と教える絵本  
時間とはペヤングソース焼きそばが別の何かに進化する道  
時間とは遅いお昼を食べるとき頭上を過ぎていく飛行船  
時間とはウサギとカメのカメの方走れメロスの走らない方

うそだみやこ  
宇祖田都子

@Shinnsyutu2020



コンビナート

## 西から登った田舎者、 東に沈む

東京に「いい夫婦の日」に宿れるも生活おもひて惣菜中食  
ホテルより高き支払ひコインパーク 銭無き袖ぞ涙に重かる  
軽カーにて銀座二丁目通り過ぐ 買へざるかはりをせめてきみにぞ  
雨の夜左シートよりきみ撮りし東京タワーの露けきかたちよ  
雷門きみと供して詣でるにわが若き首都はるかに偲べり  
きみ書きし「薄紅色」のうんち像ここにありしか隅田川緑  
スカイツリー太き樹冠の青空やは支ふるべかる 人の作す業

おおつぼめいじゅ  
大坪命樹  
@OotsuboMeiju

## まさゆめ

薄緑の葉をざわめかせ去った子が残していったコカ・コーラ飲む  
萩の散る今年の紫掃いている ひとり、ふたり、といなくなったり  
あけがたに雨が降るのも思ひ出の通路のようできみの横顔  
車椅子そこに座ればなめらかに押され去りゆくのみ之母なり  
立ち枯れの柵を切りその後は冷えた刃を身のそばに置く  
大和への列車に秋の陽があたり向かいのひとは夢をみている  
まさゆめのように降り立つホームから上に向かって階段があり

えど ゆき  
江戸雪  
@edoyuki1212



仮装は苦手ですが、パーでんね  
んでも被っておきます。



仮装するなら、くまモンのきぐ  
るみを着てみたい。

5475日

ケーキをひとつ

お賽銭箱にはためらう百円で毎朝ホットコーヒーを買う

柚子胡椒くださいと言うのが好きな冬のコンビニ 言えない冬だ

納付済み証印を捺す左手はこのあとトングをつかむのだろう

コンビニのビニール傘に交信の役目を与え向かう公園

ドア近く一番下の棚にある洗剤のような人になりたい

コンビニへかき氷器を買いに行くようにちぐはぐだったあの夏

さみしい日、祝いたいこと「この店で一番高いケーキください」

一つずつおろして 底でダンボールみたくこころがつぶれてるから

「ヘルパーさあん」行かなきゃ我と利用者をスマホが二十四時間つなぐ

アドベントカレンダーなりめくるめく五千四百七十五日

美化されず嫌な思い出は嫌なままにsum 関数で集計をする

生活は川 交わって分岐して水面のうろに魚を住まわす

来年の暦をふつとさがすもうたたむ事務所に 我・今・ここを

さみしくはない iPhone に特大のディスプレイをこの日のために

おののこののの  
小野小乃々

@aurora\_konono

おとわりん  
音羽凜

@Oto\_wa\_rin

どんな  
仮装？  
★

断髪パンダ (by 手賀沼ジュン氏)  
の仮装

どんな  
仮装？  
★

スナフキン

## 歳末の日曜日

無人駅やけに子供が群れていて交通事故予防運動  
黄緑の反射テープを配られてミニサンタ君にお礼を言う  
引率のママは職場の同僚で会釈と愛想笑いを交わす  
車内でも乗客に向け啓発のマスクの子らが元気な声で  
湖西線昼は空いてて京都まで老眼鏡を受け取りに行く  
アバンティフードコートに久々に寄ると三件店が消えてた  
本屋にも寄って三冊ペイペイで贖い帰路に就くだけの旅

か い ど  
瀬 井 戸  
@kareido1111

## ヒットチャート

音程は守らなくても構わない、そうするだけの正義があつた  
流行を知らないふりは難しいベース音だけ探る真夜中  
何もかも聞き取れなくて放棄するギターソロだけ飲み込むつもり  
カラオケに丁度良いから覚えたい希望があると保証する歌  
有線がひどく大きく響いては私の今を奪いつつある  
唯一の私を強くしたいからヒットチャートは頼りにしない  
少しだけ歌が得意になれたから明るい声で音を外すの

か わ ぎ し け い と  
河 岸 景 都  
@kate\_kawagishi



スタバのバリスタ



おばけのQ太郎

## 壁の白さを見つめていたら

学校は嫌いだつたし月イチで「お腹いたい」と言つて休んだ  
壁ばかり天井ばかり阻まれて寝る あれ、猫の目みたいシミが  
北向の部屋のひかりで読むマンガ母が来たなら枕の下へ  
いま別にやらなくて良いこと夜にクリスマスツリーを飾ろう  
目が冴えてノートに書いた小説を読み返したらほどほどに酔う  
友達のいない私に先生に言われて電話くれた水野よ  
明日には行けるからつて切る電話あしたが来ないように祈つた

きったか  
橘高なつめ  
@coconutkikko



ガルプラ999のパロナヤガール

## 最後の1週間

土に還れば君と一つになれる 地球に生まれる最大メリット  
金魚鉢洗つて乾かす 水底が空気の軽さに驚いている  
木にかかる誰かの鍵が錆びていく速度 僕らも老いるらしいね  
水槽の魚はいつか死ぬ 僕が塩焼きにしようが捨てようが  
火を見るより明らか ヒトは視覚優位 花火の音波がすり抜けていく  
月が綺麗 影に地球をぶら下げて君は花火のあとを見上げる  
日記を書く 明日提出するために いつか死ぬ僕が忘れないために

かんの  
神乃  
@kanno\_\_no



ねこ

## 誕生日の朝

「血を吐いた夢」を検索するあいだ雪を約束してくる通知  
電線の上のカラスの色も濃く冬は夜明けがはるかに遠い  
違う日のごみは正しく残される誕生日なら無視されてきた  
寒さでも生きるカラスのくちばしは噂話も葛藤もしない  
Happy birthday to (生きるから生きていだけなんだよな) me.  
でも今日も眠るおまえは風いでいて波止場のように許されている  
日本にはまだ時差がない ふたりにも午前六時はまだ日の出前

さみむらうらい  
君 村 類  
@kmmr\_r09

## うちの短歌はバズらない

#3 ~このうたげの片隅に~

ありがたく気持ちを受け取る気であるがなんでスモークチーズなんだろ  
安っぽいいちごミルクの匂いです疫病神が降りてきてます  
オイコス虚無の顔して混ぜ練ればほーら大人のねるねるね  
期限切れのえいひれを食む電池切れの顔にパックを施したのち  
午前二時たんばく質のかたまりに罪がないとか決めたのは誰  
たこ焼きを持ったままハグ肩越していい頃合いに冷めたたこ焼き  
ジェネリックかずのこチーズこっそりと買って三が日もばつちりだ

さ の か ず さ  
木 野 葛 紗  
@blueregret

どんな  
仮装？  
★

ゴールデンカムイの第七師団の  
兵卒

どんな  
仮装？  
★

所在なさげなこだめきの姿。(仮  
装してない…)

## はじまりの町

はじまりの町にあるけどラスボスもいるダンジョンのようなたの日  
雲の間に見えなくなった星があり 青春だけは滅びないよね  
歌を詠むことはときどき出産のようだと思う 二児の母です  
歌を詠むことで心がやきそばのようにほぐれる みんなやさしい  
余白ある本が増えたと本棚の深呼吸する音を聴く夜  
小さくて金にかがやく森にいてまき貝を耳にあてて見上げる  
レベル1三十一文字を引き連れて飛び方を知る旅のはじまり

こがねもり  
小金森まき  
@koganemorimaki



魔女

## 群れるバッグ・ クロージャー

いとしさのド真ん中です朝の陽を健気に受けるコンポタのゆめ  
日本酒の味を知りたいあわよくばもののお米と愛し合いたい  
泥棒に入られたかと思うほど荒れた机に林檎が三つ  
ロール売りされてるバッグ・クロージャーお前ですらも群れているのに  
片栗粉くらいの粘度で生きてたいあんかけにでもしてくださいな  
固茹でのパスタのようなひとでした赤いコートがよく似合ってて  
ゆるやかに訪れる死のまばゆさに包まれたまま新しくなる

くじらぎ  
鯨木糸ひ  
@kujuragiyo



たまごボーロ

## プレゼントにリボンを

西村 曜  
@sumakira

短歌な忘年会について書こうとすると、どうしても個人的なエピソードであったり、はたまたあまりにも些細な出来事であったり（なんかバイキング形式の立食でパスタ？も並んでいた年があり、トングで盛るのがむずかしくてみんなで笑った、等）なせ参加しているわたしはお酒を飲んでたいへんきぶんがよくなっているものだから意識も記憶もそれほど確かではなく、ふわふわふわふわ、何回か参加させてもらっているけれど、どの年も夢のようにたのしかったなあ、とだけ書くしかない。しかしそれでは文字数が大幅に余るし、短歌な忘年会のたのしさが伝わらない。

なので比較的意識と記憶がはっきりしている事柄について書くとおもう。それはプレゼント交換についてだ。短歌な忘年会にはプレゼント交換の時間があり、それぞれ持ち寄った歌集や本や、CDなんかもあった、それらを抽選で交換していく。どきどきのひととき。

わたしは歌集を出してからは、持ち込むプレゼントの品は抽歌集と決めていて、毎年三冊ほど持つていく。その用意がまたたのしい。歌集を出したさいしょの年は、本をラッピングしたらよりすてきだろうと、わざわざラッピング用品を買いにいった。大忘

年会はもちろん冬だから、白い雪の結晶の柄が入った半透明のビニール袋を選んだ。これがちよつと失敗だった。雪の結晶の柄はあんがい主張がよく、せっかくのインパクトのある拙歌集の表紙がぼぼ隠れてしまったのだ。翌年はその失敗をしつかりおぼえていて、透明なビニール袋に入れたのち、表紙絵にかぶらないようシールでデコレーションした。この年のラッピングは我ながらよかつたとおもう。これからまた短歌な忘年会が開催されたら、そしてまた参加することができたら、年々ラッピング能力をあげていくことができるかもしれない。もつとも、プレゼント交換はそう気負わなくてもよいものだろうから、ラッピングはわたしがりやりたくてやつているだけだ。こんご参加される方、そう身構えなくてもだいじょうぶです。ラッピングされていない本のほうが多かつた、はずです……。

プレゼント交換ではもちろんわたしももらった物だつてあって、ある年は俄万智『サラダ記念日』だった。その翌年は俄万智『チョコレート革命』だった。これはもう、つぎに開催される忘年会でわたしがもらうのは、俄万智『プーさんの鼻』に違いない。『なぜのてのひら』かもしれない。いまからたのしみだなあ。わたしはまた、拙歌集を持つていきますね、こんどはリボンとかかけてみたりして。



## 祝祭

雨音の響きを名に持つひとといて朝ごと世界はうつくしくなる  
フリースにくぐらせるとき指さきは海の内側なぞるやさしさ  
森林の香りのハンドクリームを爪の先までのばせば、雪だ  
うつくしい詩の朗読は震えつつ途切れつつ冬、ふゆのハモニカ  
問いひとつあたためたまま真緑のユーカリの葉を花器に満たした  
上階へゆく手のひらに乗せてやる鳥のかたちのペーパーウエイト  
どの地にも初雪はあり祝祭のようにあなたと冬を越えよう

## きみへ

夜きみの「何の用事も無い」を見る僕は一人で端席にすわる  
遠巻きに見る人たちが6割に達する急いで中心にゆく  
ほぼ口から火を吹いてると変わらないすごいハラスメントを見た夜  
竜鱗で火をふせぐ人、火を吹く人、録音をする人、マジの竜。  
黒目のない銀のまなこに我々を映す強靱な尾を振りかざす  
人間は私しかいなかったので宴は続く鱗状の傷  
おれ今日さあ竜に会ったよ夜きみのラインに送る鱗状の傷

サラダビートル  
@kyokousalad

さとうはな  
@s\_hana111



せえへんよ



しろくまの着ぐるみ

## ネット投稿 始めました。

大概のことはだいたいきっかけも思い出せずに静かな始まり  
ピンボケの歌を抱えてたどり着く仮置き場のすみ腰を下ろした  
わからないここでの作法とりあえずDM送りフォローのお礼  
追いきれず捕まえられない案件に悩みフォローは二桁のまま  
あこがれが湧き出てラップで塞いでるいつか誰かと短歌ユニット  
あの歌が活字に脱皮配られた表紙鮮やかフリーペーパー  
手のひらの中に歌を散らばせるああ君はまだ生きているのか

し き  
詩 季

@4kitanka55



不二家のぺこちゃん

## お歳暮

「ずいふんとモダンな趣味ね」年上のあなたは言ったきれいな横顔  
白い冬凍えるからだ暖めてほしくて恋と気づいてしまった  
いつまでも固いつぼみでいたかったただあなたへと還りたかった  
本心をふいに掠めたひとことはバニラアイスの芳香に似て  
ネイビーのマフラーをして海沿いの家を訪ねる暮れの逢い引き  
ビールよりハムよりうれしい缶入りのクッキーひろげて指先迷う  
変わりなく過ごしていますかこんな世にいてくれるならそれだけでいい

g r p  
@grp4grp



クマの着ぐるみ

## ピスタチオ色の自転車

光化学スモッグ警報美しく娘の髪を編みあげた日に  
形見分けだねと笑ったピスタチオ色の自転車まだありますか  
幸福を詰めこむためにワゴン車の後ろのドアは跳ね上げられて  
引力の異なる星できらきらと高速回転する観覧車  
わたくしは元気ですからあなたもね哀しい映画もう観ないでね  
夕闇に溶けゆく影を呼びとめて忘れるために手渡す言葉  
光にも影にもなれず生きてゆく選ばなかった世界の隅で

しばた ひとみ  
柴田 瞳

@cats\_eye\_tanka



『ミステリと言う勿れ』の久能整

## 嘘の色は白

大切にしていたものは八月の白いマネキンひんやりとして  
微震する視界の中で連れてつてくれるだろうか君の尻  
見えなくて触れられなくて罪としてタオルケットに包まっている  
彼は誰の滾る炎に吞まれゆくあの日の右手が粉雪となる  
慈雨降れば消える涙痕慈雨降れど消えぬ涙痕どちらも欲しい  
越えられない境界がありキャンパスに嘘を残して黒を塗りたい  
さよならの新宿駅でくれた羽使いこなせる頃には春だ

しっとりんご  
嫉妬林檎

@shitto\_ringo



ミッシェル

## ストリート

墜ちてゆく紙飛行機の軌道から生まれるちいさな気流、裂かれて  
寡黙過ぎるきみのたたえる微笑みへ冬の木陰はゆつくりのびる  
約束の地にも思える居酒屋で我ら一年ぶりに酔いたり  
だとしても老いて乾いてゆく夜の静けさが抱く空気の精度  
滑稽な自虐まじりの言い訳をさらりと放ち終バスはゆく  
どんな恒星だって死ぬ 目覚めれば明日は冬の砂浜へゆく  
ストリートピアノ奏でる指さきにすこし似ている冬の少年

しゃーらん  
西鎮

@xi\_zhen\_ivUT

どんな  
仮装？

やっぱり犬の仮装でしょうか…

## ブルボン、あいしてろ

ストーブをつけたら猫がそばに来る、そんな理由で冬がたのしい  
すみっこで泣かなくなるとんがりコーン食べなくなるときみもさみしいの  
ブラックホールって地球のルマンズの粉吸い込んで大きくなったよね  
(こころだようつくしいのは) 歯に海苔がついてることは忘れてしまっ  
落としたのは金の斧ですか銀の斧ですかわかめご飯のおにぎりですか  
山も町も冷えゆく夜にアルフォートくれるあなたは大切な人  
それはしずかな祈りのかたち幾億のホワイトロリータ眠る工場

しまだ  
嶋田 さくらこ

@sakrako0304

どんな  
仮装？

コリラックマ

## 奇跡、これから

きっかけは初めの一步が右だった　あとは目が二個ついているくらい  
コンポタの缶を二人で分け合ったお金がなかったわけじゃないけど  
写真では君が笑っているばかりプロデュース俺の写真集だ  
夕暮れで二人の影が伸びていく頭が妙に長い一族  
好きという言葉は口にしたけれど、ごめんな嘘だ好きより深い  
太るとか痩せるではなく細胞を通り越している概念で好き  
舞い落ちた雪がまつげに乗った　ほらね奇跡は毎日起きる

鈴木ベルキ  
@pandakirinkaba



のび太

## 星月夜

（ほらもうこんなにも夕焼け）  
ひぐらしは、ゆう、ゆうまぐれ、ゆうさを琥珀に埋め込むように鳴き  
肋、胸、もしくは希望に似たものを　わたし今日ケンタッキーにします  
星月夜ウーバードライバー自転車で光るコーンを飛び越えてゆく  
夜が明けてわたしと猫はガラス戸に映る姿をたしかめていた  
そのとき鯖は頭から食べたの？尻尾から食べたの？  
わたしは、ぎんが、ゆうぐれ、ゆうせいを愛しますこの順の通りに

じゃっくまめ  
雀来豆  
@jacksbeans2



犬博物館の館長の犬

## 大人ではない

左からコアラのマーチのコアラたち流れてきてる あれヒラメじゃね？  
ポッキーのチョコだけ食べるとこまで見せられる人を好きになりたい  
アーモンドチョコには種が入ってる 庭に埋めるとまた生えてくる  
密林でビスコをロットで買いました これで私もつよくなれます  
半分にするチョコココヒーの夢を見た（たぶん君はパピコが嫌いだ）  
友達の家で出されたミルクココアは二割増し甘く感じた  
クリスマスブーツのお菓子が欲しいからハタチはたぶん大人ではない

s a i l  
@rainy7days\_



IKOAのサメ

## けんかの翌日

おはようと言いつわす声冷えていて一人分しかないマレード  
コーヒーを淹れるあいだに出ていった君のぶんだけ冷めるブラック  
もちよりのお菓子鉢から引き上げているポッキーとコアラのマーチ  
企画書を見直しながらカフェオレと呼ぶには苦いなにかをすす  
スーパールをぐるぐる歩きレシートはどんどん伸びていく免罪符  
練習はしたる僕のごめんねを聞いてたシチューに背中を押され  
ノンカフェの紅茶の中にぼつぼつと増える言葉がゆっくり溶ける

せいや  
@petitchante



双子パンダのかたわれ

## はじめて会う

うしひつやけ  
牛隆 佑

@ushiyu31

最近、ウェブマガジン「TANKANESS」で短歌の企画者にインタビューする記事を書かせてもらっているのですが、この十年間を振り返る機会が増えたのだが、「短歌な大忘年会」が二〇一一年にすでに行われていたことに驚く。その大忘年会には二〇一一年の初回から毎年参加していて、そのたびに新しく知りあえる人がいて楽しい。といっても、人見知りなのであまり話せてはいないのだけだ。

二〇一一年はそれこそ、会う人すべてが新しく知りあう人だった。GREEや題詠ブログなど、パソコンの前だけで短歌をしていた僕にとつて、歌人といえは、メディアの中にいる文化人か、ネットの向こう側に存在するかもしれない「異星人」だった。仕事さえも空虚な暮らしの中で、僕にとつてのリアルはその時の交際相手だけだった。そして、その人はいつの間にか短歌をはじめ、ツイッターをはじめ、「龍翔さんって人知ってる？ 今度オフ会するんやって」と僕を誘ったのだった。二〇一一年はまだ会うこと自体が特別なイベントで、今のように気軽に会える雰囲気ではなかったのだけれど、それから数カ月おきのペースで、龍翔さんや檀可南子さんの呼びかけで何かしらの会が開かれた。田中ましろ

さんも、虫武一俊さんも、天野うづめさんも、嶋田さくらさんも、池上規公子さんにも、たしかその年に知りあつたはずだ。ただ、その時の僕は、自分の短歌に、飯田和馬の短歌の薄明さも、虫武一俊の短歌の犀利さも、六条くるるの短歌の諧謔さも、田中ましろの短歌の流麗さも見出せず、それらのすべてにことごとく打ちのめされて短歌を作らなくなっていた時期で、短歌を作っていないことの後ろめたさを抱えながら、会に参加していた。ネットの向こう側の人への憧れは、目の前の人への羨望となり、焦燥にさえなつた。その一年の最後に出会つたのが、大忘年会に来ていた岡野大嗣さんだった。

その日、岡野さんとはあまり短歌の話をしなかつたような気がする。お互いに好きな音楽の話をしたと思う。帰りの電車の中では、将棋の話聞いた。具体的にどんな話をしていたかはすぐに忘れてしまつたが、心地のいい人だなと感じたことを憶えている。その時の話がどのように作用したのかは分からないけれども、どこかふつと気持ちが軽くなつたことはたしかだ。それからちよつど十年が経ち、細々とはあるけれども一度もやめずに短歌を続けている。

十二月末、阪急大阪梅田駅二階の中央改札を出て、横に広い階段を下りてすぐに左へ。ごつたがえす待ち合わせの人たちの間を抜けて、紀伊国屋書店の入り口手前。大きなモニターの下、コインロッカーの辺りが集合場所だ。

## 軌道修正

クレソンのいのちのはての切っ先を見てみて、それが感情だから  
りんご<sup>あか</sup>紅れもん黄色のその中にまつくらがりがあるとも知らず  
冬の躁真冬の鬱を繰り返し私は猫になるのでしょうか  
最高の眼鏡を買おう悪いけど明日はこちらの世界にいない  
空に向け息を吐いたの 嫌なのね、恋する気持ちを喻えられては  
合鍵を郵便ポストにぶち込んだすぐに成仏しますようにと  
あかあかとサーバー上に残る恋 疎遠で無縁のひとさようなら

たえなかず

@suzusuzu2009

どんな  
仮装？  
★

お相撲さんの着ぐるみ。ドリフ  
のコントで着るアレよ。

## 開演

あとさきの考えなしに予約してこういう感じずっと待ってた  
消毒を念入りにする今までもしていたけれど気合いが違う  
だいたい小劇場は地下にありこれもおそらく演出のうち  
新宿の八つしかない客席にすでに心を打たれてしまう  
音の出る機器の電源を切る鼓動だけになったら明かりが落ちて  
目の前で身体が動く生きるってかなり積極的な行為だ  
ありがとうございますましたの挨拶に間引いた席の分も拍手を

だいにとうだもり

第二灯台守

@2nd\_lightkeeper

どんな  
仮装？  
★

グリフィンドールの魔法使い

## 糸雨

コロナ禍の休校により救われた子のいる街を過ぎる霧雨  
SNSを明るい遺書と呼ぶ人よ 東京湾は満ちる時刻だ  
糸雨という言葉を知ってその日から糸雨を願って空を見上げる  
朝8時新宿駅をゆく人の数だけいつか生まれる墓標  
あの人はいつたいたいどこの誰だろうおそらくただけど風車ではない  
Go went gone 迷わず颯爽と非在の森をゆけ少年よ  
申し訳ございませんがお客様雪を止めろと言われまして

た な か す い か  
田 中 翠 香  
@suikakinenbi



藤原道長

## 写真の宴

義妹のフォトウェディング古寺の跡の庭園錦織り成す  
県境を越ゆる交はり両家会ふそれぞれ家族写真を撮りぬ  
家族ぐるみの仲良き四人も祝ひ来る本格的なるカメラ携へ  
新郎と新婦がカメラマンと来る花嫁の姉なる妻涙ぐむ  
二歳なるわが子も集合写真入るその笑顔にて皆和みたり  
高校の写真部に入りし従妹をり恥ぢらひつつも前に出で撮る  
妊婦なる妻の代はりに義妹のはれの姿をカメラに収む

た か は し り ょ う  
高 橋 良  
@takahashi\_ry5



カトちゃんペツ!

## 四十路の俺

両膝にうずもれながらしよんぼりをよそおう四十路に差しかかる俺  
霧雨がさやさやと降るさむい朝ウルトラライトダウンがぬくい  
あなだらけの部下の詭弁ツムツムのようにひとなで崩そうかな  
ゴミ箱に黄色い花を活けてみる（目をあわせてはダメ）という声  
元気ですかかって歌があるけど、健康を聞いてほしいな四十路の俺ら  
本物を知る顧客との商談にインスタントなコーヒーを出す  
ちよいワルに目覚めてしまう大晦日マッチョの俺は口ヒゲつくる

たんか  
丹花ヨム  
@yom\_tanka



四十路のマッチョ

## たのしいうたげ (ソロ)

またお越し下さいませを真に受けて来ちゃうタイプのわたしですけど  
0・00001周年分くらいわたしのおかげさまかも  
巻員のおうちにおじやまするときはつまようじを刺す角度が大事  
音の鳴る仕組みを思い口笛をびゅっと吹いたら向かい風来る  
研修でSDGsを学んだし残さず飲んで残さず食べる  
ネタバレを聞いてちゃったけど人生はどうやらまだまだ楽しいらしい  
物音に振り返ったら当然のようにそこにはそこがそのまま

たに  
谷じやこ  
@sabajaco



めちゃくちゃうかれてる人

## 壊れた時計

もう誰にも会わない気がする　あなたにも　ささくればかりの荒れた手を見る  
二年間という残酷　動かないままなにもかも変わっていくね  
皺ひとつ指でなぞって晴れててもどこか行きたいと思えない  
文字だけのあなたは遠い　その距離が心地良いほど風いだ心臟  
さよならをいちいち伝えてあげるほどやさしくないよ消えてあげるよ  
一缶のビールが飲みきれなくなつてあいたい人も思い出せない  
なにもかも変わる世界でうちがわに変わらねむる壊れた時計

ち は う  
千 原 こ は ぎ  
@kohagi\_tw



黒づくめの魔女

## 三太郎

正義の味方面をした大人たち　もうごめんねは言い飽きたろう  
お茶の間でむかしばなしに花咲かすいつの時代もイケメンが好き  
鬼嫁の居ぬまにつまむポテトチップス洗濯物も輝いている  
胸元に宿るミカヅキ満ちもせず闇夜に浮かぶマサカリに似て  
移りゆく景色をおいてそびえ立つ利尻の富士ぞ波裏に見ゆ  
これやこの行きて戻れぬ時狭間　桃源郷に春は来るまじ  
灰色の世界を壊すやり方を今に伝える英雄の広告

だ ん じ ゃ  
男 女  
@TankaDanjo



ドラクエの僧侶

## 鎮痛中華フルコース

あの人の首の匂いを思い出す 桂花陳酒を口に含めば  
焼売の「うまい」と名乗る自負心を身につけるためいざ広東へ  
テーブルを回し文通するように北京ダックを送りあつてる  
喪失の痛みに勝る辣味らつぱいがまだ死ねないと突きつけてくる  
マーボウのボウの字にいる婆さんはきつと百まで生きるんだらう  
花嫁や雪よりも純白なのに食われるだけの杏仁豆腐  
満腹の身体はむしろ八分目よりもさみしい またのお越しを

つきしろ  
月城 かいん  
@2xylocaine



片方がどこかに行ってしまった  
ワイヤレスイヤホン

## 宴の扉

あと五年生きても良いと枕辺で耳打ちをする亡母に似たひと  
健全な臓器無き身に今一度開かれている宴の扉  
あと五年生きても良いと告げられて五度目の冬が腕さしのべる  
回想の美酒を酌む為取り出だす薩摩切子や有田古唐津  
あと五年生きても良いというのなら身体に灯す火酒を赦して  
おんぼろの心繕う金つぎの隙間をつたい零れ出す歌  
あと五年生きても良いと告げられた事を漏らしてさだめ忘れる

つきがうす  
月硝子  
@gesshodo



『チャーリーとチョコレート工場』のウオンカ

## 二十歳を過ぎてから

やったことないでいるのも癪だから炙ったイカを出せ今すぐだ  
アルコール 問診票を素通りし失敗しようのない二年間  
年末に集まろうって言ったのに二〇二一年、間に合わず  
ふらふらと席を立つのが好きだったそのつど切り替わる話題ごと  
水と生きる。素面で言えなそうなことばかりがふえてゆく萎びてく  
法律と酒とどちらが早いかはわかるよ古事記にも書いてある  
ますらをは酔わせて殺す八雲立つ頭八つをあまさず落とす

どう なしゃくふう  
堂 那 灼 風  
@shakufur



みずらを結いたい！（結う髪がない……

## このうへもなし

電飾は街にあふれて涙目をとほして見ればこのうへもなし  
好まざるもののひとつに冬の花ポインセチアのくれなゐのいろ  
読書より顔をあげれば忽然とあらはる書物の外の世界が  
図書館に書架たちならぶ光景のあるいは冬の森に似ること  
見ず知らずの人ではあれどはらはらと風吹くなかにビルの窓拭く  
ゆるゆるとゆふぐれはきてはつふゆのゆるきひかりはゆるしのごとし  
マグカップかるくゆすぎて一日の労苦はここにをはらむとする

てう さか せい き  
寺 阪 誠 記  
@teratanka



「Vフォー・ヴェンデッタ」のV

## わからへん ザ・ワールド

「ほんまこの世はわからへんザ・ワールド」と言う人に共感して歌う常識に準拠しているのにたまに異端の人と思われる僕だって舌に太鼓を持っていてエイトビートを叩いたりするは？なんで？ と言えば は？なんでと返す こだまでしょうか え？！こだまなの？！

光化学スモッグ 僕らの青春もかすみの除去をしたらわりと晴れ  
少数派 息を吸う吐くなかでこの隘路を楽しむ才能で行く  
わからへんザ・ワールド内にわかる人たまにいるからこれもアリ・ワールド

なべとびすこ  
@nabelab00



放課後の魔術師

## ハッピーハロウィン

まつりごと行かざるひとが連なりぬ風にまかせて散る金木屋  
十月も晦日となりぬどこまでも仮装したれどスマホは光る  
フリーズをフリーズと聴き違へけるまつりもありてながき行進  
黄鵠のゆくへは知らず かの冬のアウシュヴィッツにつづく行進  
遅れても殺されざらむ行進を見守るのみに警官達は  
交差するゆゑ交差点と呼ぶるにそのたび人はおほきこゑあぐ  
平八のコスプレこそが男なれ下駄は擦れて高く鳴りたり

なかのこういち  
中野 功一  
@chari433



平八

## 夢枕れむ、 パジャマパーティー2

そういえば枕投げ部の追いコンもパジャマパーティーだったよね、りりラブホテル、らぶほと略し消えちゃったてる、きみのこと憶えておくよバスボムが成仏しちゃう瞬間もチェキで残そう、あとで燃やそうコンドームの正しい使い方なんて知らないこれがれむの息吹よあしびきのヤマダ電機のBGMみたいに続くピロートーク寝耳にほろよい（もも味）有線の曲が良くてできちゃったことわざポケモンの通信交換みただね。エアシューターでバイバイ 諭吉！

にしじゅんこ

西 淳子

@Jacky244Ray



手紙魔まみ

## 笑顔の裏側

「ありがとうございます」の裏に貼る「二度と来るな」が何枚かある確認の返事としての怒鳴り声お前の常識なんて知るかよ学歴を問う気はないがさっきのは「はい」か「いいえ」で答えられたろ店員を人と思わぬ輩ほど自ら神を名乗ったりするもしかして本当に神様なんですか店員の言葉が通じていません見ていない聞かない言わないお客様あの有名な猿なんですか「ありがとうございます」に「ありがとう」と返され全て許してしまう

なうほう

榎原もか

@kiharaneko



いつもニコニコしているコンビニ店員

## 短歌な大忘年会と私とうたげ

泳二  
@Eishimada

えー宴もたけなわ、みなさん短歌をお楽しみのところかと思いますが、龍翔さんから埋め草に何か話をしろとご指名をいただきましたので少し頁を頂戴します。どうぞそのまま好きなものを飲みながら短歌を楽しみながら片目を拝借できればと思います。

私が短歌な大忘年会に初めて参加したのは思い返すともう8年前、2013年のことでした。当時ツイッターで短歌を始めて一年と少し経ってはいたものの、歌会などにもまだ参加したことがなくリアルではどなたともお会いしたことはありませんでした。人混みの中で会ったこともない人を見つけることができるのだからかと恐る恐る待合せ場所の梅田のビッグマンに向かったのを見ています。そこでキョドキョドしたまま皆さんと一緒に茶屋町のお店に入り、さてどこに座ろうかとまたキョドキョドしていると、すぐ傍で見知らぬお姉さまが「ほら、ここ空いてるで！座り座り！」と自分のお隣を空けてくれました。まるで親戚の姉ちゃんのような勢いに「あれ？知ってる人だったかな？」と思いがながら自己紹介したら初対面どころかツイッターですら話したことのない松城ゆきさんでした。そんなゆきさんとも今では一緒に忘年会の受け付けをお手伝いするようになったのは不思議なご縁を感じ

ます。それからは毎年忘年会に参加させていただいて宇津つよしさんと政治経済の話をしたりご機嫌ななかやまなさんを眺めたりしています。短歌の話はあんまりしたことはないです。

関東の短歌の方とお話をする、よく「関西はいいですね、忘年会とか歌会とかいろんなイベントがあつて」と言われるんですよ。関西が関東よりもいいのはわかりませんが、イベントについては本当にその通りだと思います。誰でも参加できる短歌イベントが多いですよ。関西の土地のせいなのか人のせいなのかわかりませんが。まあさっきのエピソードから察するに人のせいですかね。

しかしあれですね、去年に続いて短歌な大忘年会がこんな形で開催されるのは憎き新型コロナウイルスのせいではありますが、リアルで集まるのが難しくなったせいで全国からたくさんの方が参加できるようになったというのはいかにもこの会らしい成り行きだったような気がします。どんな形であれ忘年会、好きなものを食べながら飲みたいものを飲みながらみなさんと一緒に今年もうたげを楽しめることをなんだかんだで喜んでいきます。

というところで、とりとめのない私の話はこの辺で終わることといたしまして、私ももう一本ビールを開けてうたげの続きを楽しませていただきます（プシユ）。



## じてんしゃのうた

じてんしゃのうたはどこでもありふれているらしいから歌えよ、自転車  
自転車の葉っぱ一枚からまってがーらんがーらんげーらんげーらん  
止まったらおまえの歌も止まるだろおれも歌ってやるぞがーらん  
走ったら道の葉っぱも歌うだろいんずああちよつと凍ってる  
止まったら倒れるなんて言われるが大丈夫おれの足で支える  
倒れたらそれもまたよし自転車を迎える夜は冬の匂いだ  
自転車の二台に鍵は二本ずつそれぞれ穴は決められている

ネコノカナエ  
@nekonokanae\_uta



そばっち

## 湘南新宿ラインの 街から

子どもたち子ども車に乗せられて（あれって正式名称は何）  
子どもたち子ども車に乗せられてそれは苦しい祝祭だつて  
初冬のゆゆしきマネーロンダリングそしてあなたのはるかなあくび  
あなたつて遠さのことで教わった辞書なら燃える紙に限るね  
傷口に見えるけれども入口と呼ばれているし入るしかない  
会えなさを会いたさだけが越えていく湘南新宿ライン、走れ  
祝うよ、あなたのこのころの洞穴を。穴に塞いでる眠たい熊を

にしむう あきう  
西村 曜  
@nsmrakira



おばけ。シーツをかぶりたい

## 浜辺に向かう

待つことも待たせることももう二度とない駅前には百均できた

冷え切った空気を肺に送り込む冬の身体に再構築を

自問自問答えはどこだ何年も浸かったままのエッシャーの水

かたちだけ残ったこんな簡単に普通が普通でなくなってしまう

一人乗りヨットは静か海を往く一筋の雲秋晴の頃

命日の明日に祝う誕生日 切り替えられる人になつてた

ろうそくの灯りみたいにな心持ち夕日が沈む浜辺に向かう

のにし  
@no\_nishi

## 太るよ

だめだったままのかたちでつきあったひとにはごめんなさいもまだだ

ダークモードの向こうに俺が映りこむエフェクトじゃないスマホの画面

ユーチューバー？ ユーチューバー？ いや、ユートウバー？ 十二月でもコラーが似合う

共有のボタンがこんなにあるのになと思う 寄付をしたことはない

設計でやっといキロ軽くした車で2キロ太るよヒトは

妹が友の不倫を論そうとしていた夢で俺の役割

本厄が終わってしまう本厄のせいになんにもできなかつたな

は か ま だ し ャ か  
袴田朱夏  
@hakamada\_shuka



だるま型のスマホ



「とれたてなす」。画像検索して  
みてください。

## 聖域

他人だと思う どれだけ近くてもわたしはわたしさえ解らない  
雪の降る朝に広がるそれぞれの円、それぞれの冷えた指先  
目を閉じるみたいに耳を閉じたたくてイヤフォンをする（遠ざかる街）  
鈍色の空に光芒 暴くとは傷付けてひかりに晒すこと  
鍵穴としての問いかけ重なった視線を信じようと思った  
永遠の途中の日々にピンを立て走馬灯の準備をととのえる  
窓際でどこか遠くを見るひとよ 横顔に聖域は滲んで

はやつき  
早月くら  
@k\_hayatsuki



ミーアキャット

## gummy

地球グミから失われた大陸を探し求める藤岡弘、  
枝だけになったもぎもぎフルーツはそれでももぎもぎフルーツである  
アンパンマングミを初めて食べたときみはオブラートもいったのか  
葬った歴史に気づく者がいる ピュアラルグミの形がちがう  
にんげんはおそろしいもの手を繋ぐクマのグミさえ千切って食べる  
星のぶんハートが少ないピュレグミに私の心が埋められますか  
チューハイにコロコを入れる永遠に溶けないバブを眺めるように

はしどい かる  
丁香花古  
@574ft



HARIBO のクマ（名前はゴールドベア）になります

## あたたかさとしたかさ

いつだって電話口では酔っている君の禁酒は僕が阻止する  
適当に乗った急行であっけなく着く目的地 何が自由だ  
今はもう切符の硬い感触もないポケットに飴玉ふたつ  
自転車がい思い思いの止め方で止められている夜のコンビニ  
代わり映えない往路でも合鍵の分の重さは確かにあった  
たまに行くくらいで分かった気になって君の歯ブラシだけがへたれて  
僕だけが眠れない夜君に降る雪を払って時間を潰す

かゆさわ  
冬 沢 ことつ  
@kotatsu\_tanka



パペットマペットのうしくん

## 九年ぶりの待ち合わせ

薄暗い近鉄日本橋駅のホームの端で待ちわびる風  
九年前きみが恋人だった頃目指した街のあかり優しく  
「ごめんすこしおくれる」きみのひらがなに淋しい指があたりめられて  
改札を駆け抜けてくるきみに手を振る（なにかも許してしまう）  
おとうさん、って呼びかけて飲み込んだ きみは今わたしだけのきみだね  
早足で歩く背中を追う あの日欲しくて泣いたきみの人生  
歳末の街はそわそわわめいて夫婦をただのふたりに戻す

かくやまももか  
福 山 桃 歌  
@momoka\_fukuyama



福山市のゆるキャラ ローラちゃん！

## すぎ

凹凸の木目の映えるはずだった杉板はもう杉板でない  
あたためるだけで美味しい缶詰を誰も出せない夜の焚き火  
食べすぎの治療費分も元を取れ！ 食費だけならお得なはずだ  
いま行った普通電車を追いこして駅についたら終電がある  
メッシュ地のタンクトップと短パンで走る肩から雪も逃げ出す  
ホームから飛び出してきた勢いのハグで再発ヘルニア日和  
かけ蕎麦のヒマもないほど「大好き」と告げ続けてもすぎることなし

ふる い ひ さ し げ  
古 井 久 茂  
@fulidom



テトラポッド

## 帰省

おとなっていつからですか 高速をいくトラックが追い越すひかり  
アジカンが流れる度に通学路いくきみが振り向く鮮明に  
日に焼けた手書きラベルのMDを直視できず小さく謝る  
ポットには気づくと常にお湯があり、あつたかすぎて霜焼けかゆい  
変わらないテールブルクロス隠すよう好きなものだけ並ぶ食卓  
ケツバット、今年はないよ紅白もウツチャンじゃない 積もらない雪  
何事もなかったように実家には椅子が4脚並び続ける

ふる か わ しゅう  
古 川 終  
@fukurawasyuu



ピエロ

## NEW SEASON

足のつかない海に浮かんでいるような夜でも朝でもない午前四時  
よく見たらヒョウ柄じゃなくキリン柄いままさらだったことばかりある  
大盛りにするか悩んでいる人に背中を押してあげる墮天使  
店出たら雨が上がった後らしくキラキラして泣きそうなひと  
枯れるのが美学なのだとかわかってるこのエフェクトの名前知らない  
体温と同じ温度の水だから掬っても救っても掬っても  
結局は雨に出会ってしまうからこれが生きてくことなのだろう

まうだあおあお

街田青々

@bluesuqreme



シャウエッセン

## だんだらうん

挫かれた強き私がうずくまる もう弱いから助けてくれよ  
休日は具合を悪くしてよくて実家はひとりになれなくて好き  
ほかほかをあわれむ母のこのひらが包む私の両親の熱  
飲み慣れたヤカンのお茶のこのえぐみ 無垢な大人の愚かは嫌い  
姉に父母に祖父母に反射材巻かれて夜に輝く私  
横暴な姉の指図で足したあの上着が十年経ってぬくぬく  
泣きながら出社の日々も団欒も地続きだからまた帰れるよ

ますかれいど

榎 枯井 戸

@kareta\_id



門松やります

## 誓います！

江戸 雪ゆき

@edoyuki1212

ふだん短歌を読み合うことで付き合っている歌人が集まると、ほんとうにこれはあの短歌を作っている人たちなのかと混乱する。短歌から受けていた印象と、目の前にいる人物の印象があまりにも違いすぎる。たまに、作品と人物の印象が一致する人がいるが、それはほんとうに稀なケースだ。そういう歌人はお化けかもしれない。気をつけたほうがいい。

ひとつことわっておかないといけないのは、「違う」というだけで、幻滅したとか、あのいい短歌が台無しだとかいうことではない。むしろ、短歌というスパイスによって、もしかしたら実物以上の好印象を持つ場合だって多いのではないかな。スキー場の恋ならぬ、短歌な忘年会の恋だ。ダメサレチャダメ。

たぶん「違う」というのも正しくなくて、「見えない」ということなのだ。何が「見えない」のかというと、頑丈に鎧っている淋しさなんだろう。胸の奥深くに頑丈な鍵をかけて隠している（つもり）の淋しさ。そんなものは短歌を読めばすぐバレてしまうのに、すました顔で席に座る。

歌人は淋しがり屋だ。しかも自分がそうだといいことをつよく自覚している。だから「大忘年会！」なんて言われると、吸い寄

せられるようにビルの隙間の小さなエレベーターに乗って会場に行く。行つて、淋しくなんかないよという顔でお酒を飲む。それだけで、これから一年を安心して淋しく過ごせるのだ。こんな嬉しいことはない。

そう考えていると、これからは欠かさず短歌な忘年会に参加することを誓いたくなった。もし開催されない場合はあのビルの隙間のあたりで一人飲んでいるから電話してくれ。ありがとう。淋しいよ。



寒い寒い！  
温まりたい！

冬霧が固めた美<sup>は</sup>しき長方形 抜ければヘッドライトで夜で  
ファンヒーターの背後からつらぬく光 肩の後ろの真ん中に氷柱<sup>つらら</sup>  
飲みきれぬコーヒーが澱み夜となる 口直しに月を生ハムで巻く  
満天の星の囁き ぼた雪の眩き 炬燵に生えたアンテナとして  
北雪の Y K 35 を手酌 北斗七星ともに傾く  
天見上ぐとき首カチと鳴る 無限とは此処に届いた雪たちの軌跡  
蛭蝮<sup>なめくじ</sup>のごえて這う朝 陽だまりは陽だまりの顔していて冷酷

みずさわほなみ  
水沢穂波  
@3hohenheim

聖夜のデッサン

どこまでも笑う月夜の帰り道ワインの手提げに葱ねじこんで  
キスをするためにマスクをずらされてキスをしたあとまた戻される  
不定期に夢を産み出すこの街の凶暴すぎる明度と彩度  
シュトーレンためらいながら切る君よ 失くした数だけ幸いはある  
父も母も歌詞を知らないクリスマス・キャロルを継いでゆく子どもたち  
グローリア愛し愛されグローリア人の子として輪郭を持つ  
先に寝たひとの窪みに頬寄せて 季節外れの人魚の夢を

みかげ  
深影コトハ  
@cotoha\_mikage



『徹子の部屋』のレディー・ガガ



クルエラ (美しさと防寒対策が  
完璧)

## 白昼夢コスチューム

龍の背に乗ってどこまで行けるだろ砂漠の中にビー玉ひとつ  
モノクロのページに咲いた彼岸花しらないままでいればよかった  
褒め方のレパートリーが少なくて次に会う日を不安に思う  
乾杯のグラス重ねて目を合わせ窓の外では海が凪いでる  
幸せを運ぶ小鳥は実はもうバルコニーまで来ているのです  
生コーラのどを通ればしゅわしゅわとなやんでたことわすれてしまう  
重ね着のように記憶を身にまといどこに向かつて歩けばいいの

みそのみそ  
@mis0no



ちょっとダサイセーターを着た  
休日のパパの仮装

## 平常運転

人たちと無尽蔵にも触れ合えるそうかそういうしあわせあるか  
あのひとは新聞を呼ぶ手紙だとぼくの気持ちの投函先は？  
家で見るとぎげんな内やってくる配信期限追われ蒼白  
考えて考えて身のうちにするできないぼくは投げて忘れる  
六時間見て回ったよ展覧会ツイッターではツイートひとつ  
「フロッピー」設定画でのひとことにエヴァの地層の降り積もりゆく  
新聞も人も嫌いなこの身からあの猫たちを好きと言う罪

みやぎみずは  
宮木水葉  
@miyagi\_mizuha



推しのお人形さんを。人間サイ  
ズだともろもろ大変。

## 同僚と弊社

口癖が「二年で退職」の同僚と聞いているチャッキ弁の弁音  
おれたちと上司の前で言っていることが違えば疎まれていく  
信頼は複層構造 同僚が事案に手を突っ込んで ああああ  
来年の自分がどこに行くのかがこの同僚の進退で変わる  
宿直を半年ぶりしてみればペンギンのようにしぼらく眠い  
『人類みな麺類』キッチンカーが来て誰も買わないのが淀屋橋  
評判の悪いやつほどやりやすい現場に残留する 冬の宵

むしたけかずとし  
虫 武 一 俊  
@mushitake



ふんわり名人

## きらきら プラネタリウム

ありがとう眼を殴られた時にだけ見られる星座を教えてください  
星空が見せる私の孤独さは星の孤独より孤独だろうか  
青春を加速させよう彗星のように何度も光るオービス  
星になる方法を教えてください 犯罪者として逃げる以外で  
地球より大きい衛星 これ以上私が小さい話をしないで  
きらきらと星のマークの書き順がでたらめだったあなたを思う  
流れ星になります どうか死なないでと3回くらいは言われたかった

みやまむつみ  
深山睦美  
@57577\_77575



判断力

ああ、それでも

どの国のいつの空気かわからないウイルキンソンの泡のきらめき  
試読をと投げ込まれたる新聞に今朝の地震の記事なかりけり  
有料に切り替わる日が恐ろしく無料期間も試せずにいる  
時差式の意味がわからず子午線に思いを馳せて待つ信号機  
迫りくるそして去りゆくサイレンが転調しなくなったのはいつ  
結論はそんなに早く出ないでしょう なぜ生き急ぐ歌の友輩  
名を変えて戻ってきたと気づいても元の名前を訊いたりしない

む ま い  
六 厥 め れ う  
@mereumumai

どんな  
仮装？  
★  
沢田研二『カサブランカ・ダン  
ディ』

BAR「MUGEN」

連勤務残業続きでふらふらと迷いし路地のネオン色あせ  
灰色の路地に真っ赤な灯がともる 「BAR MUGEN」なる看板も赤  
マスターが差し出すカクテル「MUGEN」飲み、疲れた客は皆パワフルに  
我もまた「MUGEN」一気に飲み干せばマラソン勤務バリバリクリア  
仕事でき女にモテて疲れなき休みも眠りもいらぬ「MUGEN」  
バー寄りて仕事・遊びを繰り返し吾の心臓はいつも早鐘  
仕事場でバタリと倒れ絶命す はっと目覚めた師走の朝に

む つ う み で す け  
六 浦 筆 の 助  
@Tohakumutun5057

どんな  
仮装？  
★  
黒いマントのようなコートをき  
たブラックジャック

## 救われたんだ

いつだって自信がなくて後ろ向き短歌と会って救われたんだ  
辛いこと日記にすれば苦しくて三十一文字は語りすぎない  
丁度良い距離に短歌は立っていて言葉は胸の内を探った  
あのままじゃ知らずに過ぎた人達に出会えたことを嬉しく思う  
日常が色づいてゆく車窓から見える景色もレンガの染みも  
自分には詠めない歌を羨んで自分の歌に気付いたりした  
少しずつ何かを掴んで行けたならいつか自分をゆるせるように

ゆや ゆき  
@yuya\_yuki\_tanka



男装の麗人になってみたい…

## 埋めたいブランク

年齢を重ねるごとになんとなく隠せるようになる人見知り  
7年のブランク埋める材料のひとつとなっておくれよ雨よ  
お金より大事なものがあることを知りつつ今日も出勤をする  
粉雪に紛れた塵は冬空を愛することができだろうか  
大丈夫きれいなものをきれいだと言えられたら空はほころぶ  
残業のオフィスは酸素飽和度が高めの少し低体温です  
帰り道きづけば思い出している人も誰かを思つて歩く

やえりり  
八重森 さくろ  
@yaesaku0329h2



パグ犬になりきりたいです

## ウォールフラワー

マライアの流るる店のテーブルに醬油の三つ並びてゐたり

部下の話を聞かぬ上司が付き出しのポテトサラダにソースをかける

軟骨を噛み砕きつつ風俗の話で盛り上がるをとこたち

さうかさうかスリムなひとはジャケットの下にダウンを着られるんですね

わたくしを四つ積んでもわたくしは消えませんよ、と笑つてあげた

間を埋めるたびに摘まんでゐるはずの枝豆がいつ食べても旨い

焼き立てのピザのチーズの冷えゆくを見つめてをれば終はるパーティー

雨降つてそれほど寒くない昼をお土産にして人を訪う

いつまでも雲の岸边に居たかつた溢れたり流れたりしたかつた

西向きのベンチに西日がさしていて今なら間に合うような気がする

遠く見える貴方を待つだけだった日々さいわいにして二人は今も

雨のなか水平に走る、濡れている 熱いたましい、と少し思う

振り向けば川の先には冬花火ひかりを川面に落とし揺らめく

だからって無理に意味づけなくていい三日月が少しずつ太くなる

わだはろみ  
和田晴美  
@hrm143ponta

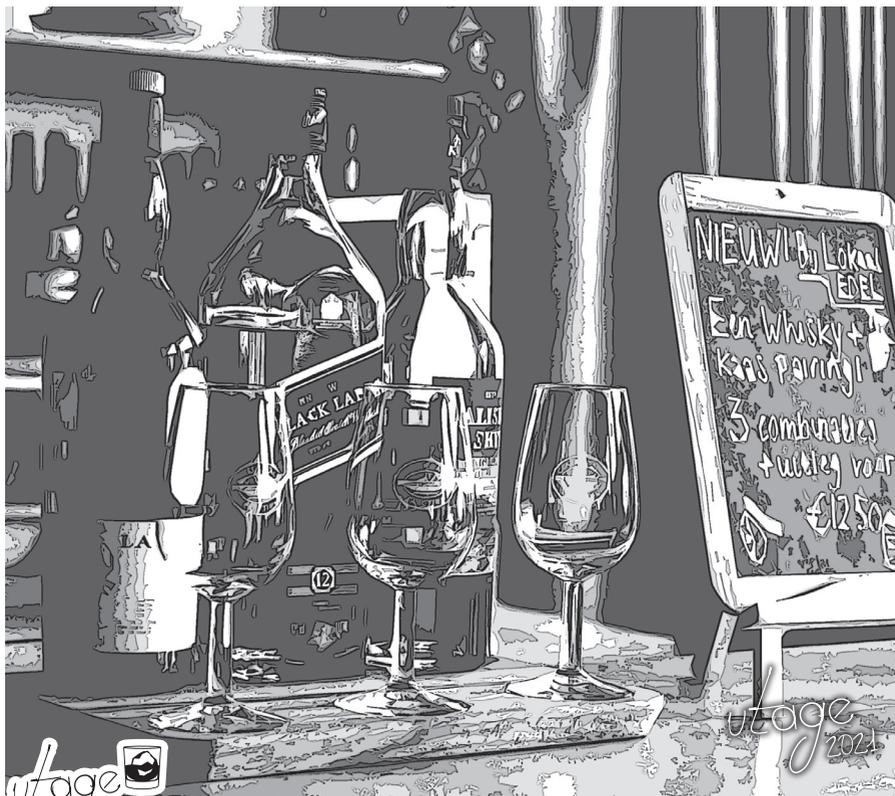
りゅうしょう  
龍翔  
@oppizuntsuan



ハワイアンなドレスとレイで南国風



ドレスを着た貴族のお嬢様



## utage おわりに

『短歌な大忘年会 2021 in the zine 一うたげー』にご参加のみなさま、本当にありがとうございます。今年こそみなさまに直接お会いできることを願っておりましたが、もうデルタやらミューやらオミクロンやらなにがなにやらで、今年も紙上での開催とさせていただきます。ですが、今年も全世界から77名ものたくさんの方々にご参加いただきましたこと、本当にうれしく思っております。みなさま、いつか必ず元気にお会いしましょう！

最後になりましたが、タイトなスケジュールにも関わらず、エッセイをご寄稿くださった牛さん、宇津さん、泳二さん、江戸さん、西村さん、そして今年も素敵なzineをつくってくださったこはぎさん、本当にありがとうございました。(龍翔)

二年連続で「短歌な大忘年会」が開催されないことになり、わたし個人も歌会や文学フリマなどのイベントにも参加できず、もうずいぶん長い間、みなさんと直接会って話をしていません。この冬こそはと思っていましたが、その願いは叶わず、また来年に楽しみを持ち越すことになりました。

けれど、今年も龍翔さんからお声掛けをいただき、こうして紙上でたくさんの方々とうたげ」を開催することができました。さまざまな短歌作品、多彩で愉快な仮装、あたたかなコラムをお寄せいただき、ご参加くださったみなさまには心から感謝しております。龍翔さん、今年もほんとうにありがとうございました。遠くないいつか、みなさまと元気にお会いできる日を、楽しみにしております。(千原こはぎ)



短歌な大忘年会 2021 in the zine うたげ

発行：2021.12.20

短歌・エッセイ：ご寄稿いただいた皆さん

企画・運営：龍翔・千原こはぎ

編集・制作：千原こはぎ